とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	にしおぎ駅前保育園
法人名	株式会社小学館アカデミー
法人所在地	東京都　杉並区　松庵　3-35-15

1．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然
（植物・生き物）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
当園は都心にありながら園庭があるという強みを活かし「自然」をテーマとした。食べることは生きていく上で欠かせないことであり、日頃から食べることが好きな子どもたちが、給食の中でも味噌汁を好んでいて、給食中のなにげない会話の中で「豆腐」の話題になり、豆腐はどのようにできているかとの話になった。今まで食材について深く探求したことはなく、今回「豆腐作り」を通して食に対して興味関心をさらに深めたいと思った。
また動物や魚の生き物への視点を広げていく中で、「魚は何を食べているのか」「動物によって食べるものが違うのはなぜか」など自ら疑問を持ち、調べたり、伝え合ったりする姿が見られるようになった。

2．活動スケジュール

5月頃～

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
準備物:大豆　支柱　ネット　タコ糸　じょうろ
環境設定:菜園、ふれあい動物園、ふれあい水族館、遠足先（葛西臨海水族園）

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

子どもたちが豆腐の原料である大豆の存在を身近に感じ、興味を持って観察やお世話ができるように実際に育てる経験をする。
豆腐ができるまでの過程を外部の講師に教えてもらい、保育士と連携しさらに興味関心を高められるようにしたり、ありがたみを感じられるようにする。
大豆作りの経験を通して、食べ物が育つ過程や「食べること」そのものに興味を持てるようにしていく。「いただきます」は命をもらうことといったように、命と食とのつながりを意識できるようにしていく。
実際に動物や魚の生き物に触れることで、生き物が食べて生きることや命とのつながりについて理解を深められるようにした。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
・外部講師に枝豆と大豆を持ってきていただき、比較する。「色も大きさも全然違うね」「なんでこんなにちがうの？」と不思議そうに見ていた。
・大豆を植える時に「大きくなってね！」「たくさんお水あげるね」と声をかけていた。
・芽が生えてくると「出てきたよ！」とほかの友達にも報告し、喜びを共有していた。
・収穫するときに、外部講師が見せてくれた大豆を覚えていて、「同じやつだ！」「これがお豆腐になるの？」と驚きながらも嬉しそうにしていた。
・豆腐の作り方を真剣に聞いて自分たちでもできるところを精一杯手伝い、「大豆もともと生きてたんだよね」と言っていた。
・実際に出来上がったのものと自分たちが想像した豆腐が違ったようで、「なにこれ」と驚いていたが、食べてみると豆腐の味がして「あ、お豆腐だ！」と言っていた。
・「いただきますってこういうことなんだ」という子もいた。
・「ヒツジは何食べえるんだろう」「ヤギと一緒だ」と食べるを自分なりに比べていた。
・「アヒルと僕たちのご飯は一緒だね」と気づきを保育者に伝える子もいた。
・「お魚さんたちは何を食べるんだろう」「お魚も食べないと死んじゃうよね」と気になっているもいた。













５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・当初は個々の気づきにとどまっていたが、活動を重ねる中で友だち同士で考えを伝え合い、共有しながら理解を深めていく姿が見られるようになり、対話を通した学びの広がりを感じられた。初めは生き物と食べ物を別のものとして捉えていたが、大豆作りの経験と結びついたことで、「大豆も生きていた」「動物や魚にも命がある」と気づき、「命をもらうこと」といったように命と食のつながりを意識する姿へと変化していった。さらに水族館や動物園の活動を通して「魚は水の中で食べる」「草を食べる動物と肉を食べる動物がいる」など環境や食べ物の違いに気づき比べて考える姿が見られるようになった。